

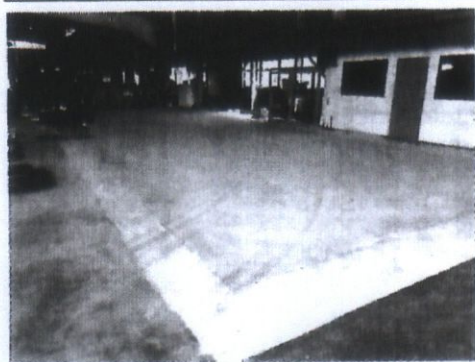
関根床用鋼板

レーザー切断機更新へ

厚物対応強化、加工精度向上

縞鋼板や
熱延鋼板を
はじめとす
る各種鋼板加工業の関
根床用鋼板（本社・千
葉県浦安市港52、社長
・関根保彦氏）は、近
くレーザー切断機を新設
する。

99年春に稼働した既
存レーザー（出力3KW）
の経年に伴う老朽化リ
ブレースで、新設後の
保有台数も現在の2台
体制は変わらないが、
発振器出力を4KWと
するほか、最新鋭仕様
による高速切断、厚物
領域の安定した高品位
加工を実現。生産性を



レーザー新設に備えて構内を整地

大幅に向上し、顧客の
や短納期ニーズにきめ
細かい品質・精度要求
細かく対応する。

既存の
3KWレ
ーザ（ア
マダ製）
は、経年
劣化によ
って直近
では安定
加工領域
が板厚12
ミリ前後だ
ったが、
新設する4KWレーザー
（アマダ製）では22ミ
リ厚までの高品位・安定
加工が可能とのこと。
従来と同様、テーブル
サイズは幅3.5×6.5
で、パレットチェンジ
ャー棚と運動し、スト
ッカーから定盤への母
材搬入と加工後の搬出
を自動スケジュール運
転するので夜間も含め
て長時間稼働する。
あすから設備本体の
設置工事が始まり、調
整・試運転を経て9月
中旬からの本格操業を
予定している。

同社は縞板や熱延鋼
板、エキスパンドなど
床用建材二次製品の総
合鋼板加工センターで

あり、レベラー&スリ
ッターコンビネーション
ラインやレーザー加工
機、シャーリングマシン
ン、折り曲げ加工機と
いった各種設備を保
有。一次加工から二次
加工工程まで社内一貫
体制を整え、トラック
を含む自動車関連や建
設・建材関連など幅広
い需要分野向けに加工
製品の販売を手掛け
る。